

## まとめ

「都市における生物多様性とデザイン」に関して、企業の自主的な取組として進められている先進的な事例を紹介してきた。他の多くの環境問題と同様に、都市における生物多様性に配慮したデザインとはどうあるべきなのか、確証ある正解は未だ導かれていないのが現状であり、市民・NGO、研究者、行政等、様々なレベルで議論が始まったばかりである。環境問題に関してその責任が特に取り沙汰される企業においても、先進的な企業においては、自らの足元から何ができるのか考え、取組が始められている。もちろん、ここで紹介した事例はそれぞれのサイトや地域に限定されたものであり、これで生物多様性の全ての問題が解決するというわけではないし、それぞれの取組もまだまだ発展の途中にあり一層の工夫や改善の余地を残すものである。しかしながらそれぞれの現場において、現在取り組みし得る最善を尽くし取組んでいることがわかる。

全ての事例に共通して、従業員の積極的な参加を促し、地域住民やNPOとの協働が盛んに取組まれている状況がわかる。また、都市づくり・まちづくりの全体として、自分たちがどれほど貢献できているのか、企業やサイト単独での取り組みではその機能発揮に限界がある、との課題認識が共通して読み取れた。企業それぞれの取組をより効果的に機能発揮させるためにも、行政（自治体）との連携は不可欠であり、今後は、市民、NPO、研究者、行政、企業等様々なファクターが情報や意見を交換しあい、取組むべき方向を定め、協力していく体制づくりが必要と考えられる。また、より多くの企業に積極的に取組んでもらうために、規制という手法に頼らず、企業の自主的な取組意欲を喚起する環境の整備も必要と考えられる。



URBIO 2010 国際会議 都市における生物多様性とデザイン

口頭発表セッション：都市における生物多様性とデザインへの企業の社会的責任 参加報告書

---

2010年8月31日

発行：財団法人都市緑化基金

東京都文京区関口1-23-6 プラザ江戸川橋310

TEL：03-3235-8065 FAX：03-3235-3067

e-mail：midori-info@urban-green.or.jp